

2021年3月期決算に関する電話一斉取材 主なQ & A

[2021年度営業収入]

Q： 2021年度の運輸収入及び非運輸事業の営業収益の見通しは。

A： 運輸収入について、新幹線定期外は8月頃にコロナ前の約80%に、在来線定期外も同時期に85%まで戻ると想定している。定期収入は以前はコロナ前の約85%まで戻ると見ていたが、最近の傾向を見て、第3四半期にコロナ前の約80%まで戻ると想定をしている。非運輸事業について、流通・サービス事業は年度末時点でコロナ前の9割程度になると想定している。不動産・ホテル事業は、ショッピングセンター事業は年度末時点で9割程度、オフィス事業は年度を通してコロナ前と同水準、ホテル事業は年度末時点で8割程度、その他のクレジットカード事業は年度を通してコロナ前と同水準と想定している。

[コスト削減]

Q： JR東日本単体におけるコスト削減について、2020年度の実績と2021年度の計画値は。また、2021年度のコスト削減の考え方は。

A： 2020年度は損益として1,030億円のコスト削減を実施し、2021年度は590億円のコスト削減を計画している。人件費として20億円、修繕費として310億円の他、広告宣伝費、物品費や業務委託費等の積み上げも合わせて合計590億円のコスト削減を計画している。黒字化に向けて、2021年度も引き続きコストダウンに力を入れている。安全を最優先にしつつも、一步踏み込んだ計画としている。来期以降もしっかりと水準を見ていく。

[広告事業のセグメント変更]

Q： 2021年度の流通・サービス事業の営業利益が420億円と強い数値となっているのはなぜか。

A： 流通・サービス事業の営業利益の数値については要素が2つある。1つ目は需要の回復である。2つ目はJR東日本の広告事業を運輸事業から流通・サービス事業にセグメント変更を行ったことである。広告事業のセグメント変更により流通サービス事業の営業利益への影響額は約180億円である。なお、連結決算での営業収益への影響はない。

以上